

ヤとペテロとの間のかゝる問答を記して居ないことは、ネストル教に於てこの經の原典の存したことを否定するものではないが、然もこれを疑はしむる據の一つとはなり得る。

更に考ふべきは志玄安樂經といふ經題である。志玄は下の安樂經といふ語から考へても、音譯ではなくして漢語に相違ないが、玄といふ語は道德經の首章、天地萬物生化の道を説いた所に見えるを始め、屢々その中に用ゐられた重要な語であること、今更述べるまでもない。この經にはなお第四十一行にも玄通といふ語を用ゐて居るが、これは道德經上篇第十五章に見える語である。これ等はこの教義を説くに當つて、特に老子の語を抽出して用ゐたものと見て誤りないと思ふ。今この事を論ずるに當つて、自分は先づ近時に至るまで景教唯一の記念と認められた景教碑文について、少しく考ふる所を述べなければならぬ。

唐代に於て景教士がその教義を説くに當つて、これを老子の教に似通はしめようとした跡のあることは、この碑文に記さるゝ所を考へて見るならば、蔽ふ可らざる顯著なる事實であるといふべきである。碑文中に道德經の文句を引いた所、若しくはそれに似た文句を使用して居る所の少くないことは、從來碑文の解説に従事した人々に依つて注意せられたことで、ゴービル (Gaubil) の如きは碑文の撰者が道教に歸依して居つた人であるとまで見たが、然もその中には道德經のみならず、その他の道家の書及び儒家や諸子の書中より引いた語もあるので、必ずしもかく見ることが適當であるとは認められなかつたやうである。併し自分は單にその用語に老莊の書に見えるものが多しといふに止まらず、かゝる語を少からず用ゐたのは、景教そのものが老子の教に近い教義として説かれて居つた